

お知らせ

平成19年度 二松学舎大学COEプログラム公開講座

19年度本プログラムが開催する特別講義等は、日本漢文学研究又は漢文文献の調査・整理に関心を持つ若手研究者及び書誌調査の専門技能者を育成するために開くものです。対象は学内外の大学院生及び院生レベルの若者を主とし、他に一般社会人等にも、講義あるいは講習等を通じて必要な基礎知識と技能を身につけることを目的としています。

◆受講料：無料 ◆対象者：学生、研究者、教員、図書館員及び一般の方 ◆会場：本学九段校舎

◆応募締切：各講座の開始1週間前〔受講申込書により先着順受付。定員になり次第締切〕 \* 重複受講可

◆申込・問い合わせ先：二松学舎大学COE事務局 〒102-8336 東京都千代田区三番町6-16（九段校舎）  
Tel: 03-3261-3535 Fax: 03-3261-3536 e-mail: coejimu@nishogakusha-u.ac.jp URL: http://www.nishogakusha-coe.net

講座名	内容	講師	所属	期間・時限等	参加人員	
特別講座	1 漢字の文化史	私たちの祖先は、中国産の〈漢字〉を日本語化（音読・訓読）し、〈漢文訓読法〉という独自の読み方を創案した。この講義では三種類の字書（形・音・義）を通して漢字の諸相を浮き彫りにし、漢字の日本語化の実相を探る。	大島 正二	本学 客員教授 COE研究協力者	木曜日 4時限 前期・後期	締め切り ました。
	2 江戸の漢詩	江戸時代は、日本における漢詩の“空前絶後”の繁栄期である。260年の江戸時代を、四期に分け、それぞれの時期の代表的な作品を解説し・鑑賞しながら、その発展の様相を見、併せて日本漢詩の独自性が那邊に在るかを考え、今年は中期へと進む。	石川 忠久	本学 前学長	木曜日 6時限 前期：10回 後期：10回	締め切り ました。
演習講座	3 漢籍書誌学	漢籍の目録作成と解題執筆を通じて、漢籍書誌学の基本を学習する。実物を手に取り、版面の比較、調査カードの記入など、実践的な演習を行う。	高山 節也	本学 教授 (拠点リーダー)	水曜日 3時限 前期・後期	締め切り ました。
	4 古文書解読講座	江戸～明治期の儒者・医者など、漢字漢文に素養のある人々の、書簡・日記・書幅などの肉筆資料を中心に読解していく。一般に漢籍と違って、国書では書写資料の占める割合が非常に高く、ことに江戸～明治期の漢詩漢文は、同好者間に小部数流通した場合が多く、この分野を扱う以上、書写資料の読解は避けて通れない。多くの資料に触れて、当時の書体・用字・用語に習熟して欲しい。	町 泉寿郎	本学 専任講師	火曜日 7時限 前期・後期	締め切り ました。
	5 『教訓抄』の研究	興福寺楽人狛近真の『教訓抄』は、十三世紀の成立と考えられる我が国最古の総合的楽書で、東アジアからもたらされた雅楽の準漢文資料として貴重である。本書を通じて中国文献の享受、音楽伝承の比較研究等を試みる。	磯 水絵	本学 教授	火曜日 6時限 前期・後期	締め切り ました。
	6 古訓読解演習	現行の漢文訓読法は返り点や送り仮名の標準化に大きな寄与をしたが、それだけでは実際の刊本や写本に付された訓を読みこなすことができない。そこで、藤原惺窩が訓点をほどこした「五経」を教材にし、古訓読解の演習を行いつつ、中国語学と国語学との両面から考察を進める。（受講生は演習担当が義務）	佐藤 進	本学 教授	火曜日 4時限 前期・後期	締め切り ました。
集中講座	⑦ 訓読資料論	漢文を自言語で理解する上で、種々の工夫がなされた。漢字文化圏共通の工夫もあり、各地域・言語特有の工夫もある。敦煌文献、口訣資料、日本訓点資料等を用いて、国際的視野より訓点資料を解明する。	石塚 晴通	COE客員研究員	① 7/23～ 7/27 ② 12/17～ 12/21 2・3・4 時限	締め切り ました。
	⑧ 書物の中日交流論	講師提唱のブックロード概念に基づき、中日における書物を基軸とした文化交流を研究する。前期はシルクロードとブックロードの比較、後期は日本の書物の中国へのフィードバックに焦点をしばり、書物の果たした役割を明らかにしたい。	王 勇	COE客員研究員	① 7/17～7/21 ② 1/21～1/25 2・3・4 時限	締め切り ました。

文献資料書誌技能者養成講座	9	明治期の漢語について	1720(享保5)年、徳川吉宗は蛮書の禁止令を緩和した。キリスト教関係を除く蘭書と漢訳洋書が輸入された。『解体新書』は蘭書の翻訳、『官版万国法』は漢訳洋書の和刻本の代表である。これらの用語(中国語)が、どのように日本語に借用されたかを辿ってみたい。	飛田 良文	・国際キリスト教 大学アジア文化 研究所客員所員 ・国立国語研究所 名誉所員	土曜日 2時限 ①6/ 2 ②6/ 9 ③6/16	締め切り ました。
	10	古典籍の製本実習	国文学などに従事する研究者にとって書誌学に関する知識は必要不可欠である。その内容は多岐にわたる。15年間の修理経験から袋綴、粘葉装・大和綴(今日で言う綴葉装)の製本実習から構造について学ぶ。 〔要材料費1800円・ハサミ、スティックリ持参〕	榎筒 節男	・和洋女子大学専 任講師 ・東洋美術学校専 任講師	土曜日 3時限 ①6/ 2 ②6/ 9 ③6/16	締め切り ました。
	11	日本の漢籍と中国の古籍	漢籍とは、清朝以前の中国人の著作で、清朝以前に出版・鈔写された古典籍を指すが、その定義はなお曖昧でなかなか世に浸透しない。しかし、空前の古書ブームを誇るお家元中国では、古籍といえどどんなものか、人々のイメージははっきりとしている。江戸時代以前には、両者の実態にはそう隔たりは無かったが、現在では何か全く違うものに聞こえる。もう少し漢文資料を実態に即してアプローチしてみたい。	高橋 智	慶応義塾大学 斯道文庫 助教授	土曜日 2時限 ①7/ 7 ②7/14 ③7/21	締め切り ました。
	12	和漢医籍の書誌学	中国・日本及び朝鮮は長い伝統医学の歴史を有し、その間に著され世に出た書物の遺品がいまなお大量に伝存している。これ多岐多様にわたる医籍の書誌形態について、歴代・各種の現物を提示しつつ、その特質を概説する。	小曾戸 洋	北里研究所 教授	土曜日 3時限 ①7/ 7 ②7/21 ③7/28	締め切り ました。
	13	幕末の江戸と漢詩文学	幕末にして江戸、という時空を俯瞰するかたちで漢詩文学の面白さを追求する。誰がどのような場所で何をきっかけに詩文を書き、あるいは読んだのか。外患の時代に江戸独自の風俗と景観は、どのように認識されたのか。巨大都市の内と外では、漢詩文学はコミュニケーションとしてどのような特色を持ち得たのか、等々テーマに添って、当時の作品を読み解いていく。教材は原文のコピーを配布し、その原本もできるだけ触れられるように工夫したい。	ロバート キャンベル	東京大学 総合文化研究科 教養学部 助教授	土曜日 2時限 ①12/ 1 ②12/ 8 ③12/15	締め切り ました。
	14	仏教文献概説	【漢字仏教文献】インドから伝来した仏教経典は、後漢末から漢訳され始め、仏典の翻訳は宋代まで続いた。また、漢訳された仏典に基づいて、中国人はインド仏教とは大きく異なる独自の教理と思想を形成してゆき、多くの中国仏教文献が創作されていった。 【写本と刊本】それらの漢訳経典と中国撰述の仏教典籍は、基本的には唐代までは書写により、宋代以降は木版印刷による大蔵経によって、伝えられてきている。版本としては、宋代以降、様々な大蔵経が開板されてきたが、書写された特殊なものとして、敦煌から発見された大量の写本もある。 【目録】インドでは仏教の目録は作られることはなかったが、中国では中国文化の伝統に基づいて、東晋時代から漢訳経典の目録が編纂されはじめ、多くの目録が編纂されてきた。 この講義では、上記の三項目に関して概説する。	丘山 新	東京大学 東洋文化研究所 教授	土曜日 3時限 ①12/ 1 ②12/ 8 ③12/15	締め切り ました。

